私と車

根室市外三郡医師会
中標津脳神経外科
高山　　宏

学部３年夏休み中の臨床研修で道東の日赤病院に行ったことが私と車との出合いになった。日本にも国民車としてカローラ、サニーが出現した時代であった。同期のＯ君と行くことになっていたが、なんと彼は新車のサニーを買っていたのであった。その車で札幌から小清水まで乗せてもらった。夢のようなドライブであった。私にはＯ君の運転する姿がヒーローのようにまぶしく見えた。帰札後からは車の雑誌を読みふけることが多くなった。

卒後脳外科に入局した。北海道でも第一次交通戦争が勃発していたころであり、救急患者が毎晩多数押しかけており緊急開頭手術も多かった。そのうちに大学医局当直室が寝泊まりの場になっていた。札幌に自宅があったが正月、お盆くらいしか帰宅できなかった。ある夜医局で酒を飲んでいる時にＭ先輩からご指導を受けた。“おい高山、俺の友達がトヨタにいるから紹介してやるか？”。

最初の車は白の中古カローラであった。田舎の病院へ短期出張した手当を頭金にして、月賦でやっと手に入れることができた。朝早く起きて病院駐車場に置いてある車で30分くらい市内をドライブするのが楽しみとなった。当直でない日曜、祝日は36、37号線で長万部のカニ飯を食べに、また230号線を中山峠経由で洞爺、ニセコへ、また12号線、275号線で旭川、層雲峡、天人峡温泉等へ、５号線で小樽、積丹等へと観光地は大体マスターした。当時は現在のような舗装道路は少なく工事中の砂利道が多く、道路は渋滞していた。どのコースをとるかが問題であった。時間短縮を図るために予想される渋滞区間、渋滞回避の抜け道、追い越し禁止区間、追い越し可能区間、砂利道路の状態、カーブの状態等を把握するのに苦労した。

その後“隣の車が小さく見えます”のコマーシャルに刺激されて新車カローラを２台乗り換え、加速の良いコロナハードトップ1900SL、さらに加速の良いロータリーエンジン搭載のルーチェハードトップに乗ることができた。フロアシフトのカチッと決まる変速操作、１速から３速、トップまでのシフトアップ、シフトダウン！　エンジンの唸る音がたまらなかった（逆にロータリーでは静寂音に酔いしれた！）。

道路を舐め回すように、またタイヤに目をつけたように、カーブはスローイン、ファーストアウトで。山道はシフトダウンしてエンジンブレーキで加速、減速させ切り抜ける。特に峠でのエンジン音がたまらなかった。

クルマとの生活もあり晩婚であったが、クラウン２台を乗り継ぎ、家族も増えてくると、マスタエース、エスティマ等のセカンドカーも必要になってきた。

しかし仕事に暴飲暴食等の不摂生も重なり冠動脈硬化症、狭心症等で入院することになった。入院が長引き気弱になっていたころ、雑誌で4,000ccの初代セルシオ発表のニュースを知った。このまま退院できず再起不能になったとき家族がどうなるか等の心配もせず、お金もないのに新車発表会を待たずに買うことにしてしまった。妻が良く許してくれたものだと今でも冷や汗が出る思いであった。

その後当直、急患等で休息のないポケベル生活から身を引き、道東の脳神経外科クリニックに転任することになり、独Ａ車２台乗り継ぎ、現在独Ｂ車の２代目に乗っている。

最近車に興味を示す若者が少なくなってきた。車もガソリン車からディーゼル車、ハイブリット車、ダウンサイジングのエンジン車、電気自動車等と目まぐるしく変わってきている。日本や世界経済を牽引してきたトヨタも、時価総額で電気自動車のテスラに追い抜かれるようになってきた。エンジン車のパーツは多い、さらにそのパーツを供給するサプライ企業等のすそ野は広い。これらの企業の英知が今までの日本経済を牽引してきたのだ。私にとっては箱型の車体にバッテリーを乗せただけの電気自動車には全く魅力は感じられないのだが！

しかしこれからの車の未来は広い。現在一部の車でも、AI（人工知能）化に伴い自動的に車間距離、車線維持、駐停車等をサポートできる。非常時に衝突を回避し車を安全に停止させる等の機能が常備されてきている。さらには自動運転車の登場、空飛ぶ車の有人飛行試験の実用化も始まってきている。これからの車はどこまで進化するのだろうか？　楽しみでもあるが、何となく寂しくもある今日この頃ではある。